



速報

みなみいおうとう

世界自然遺産候補地の南硫黄島で四半世紀ぶりの自然環境調査

～ 陸産貝類の新種発見！ クロウミツバメなど貴重な生態映像を収録～

1. 調査の目的及び意義

東京都では、小笠原諸島の世界自然遺産登録に向け、遺産としての価値を証明するため、今なお手付かずの自然が残っているとされていた南硫黄島の自然環境調査を首都大学東京と連携して実施しました。これは、昭和57年に環境庁(現 環境省)が実施して以来、25年ぶりの調査となります。(調査期間は平成19年6月16日(土)から6月28日(木)まで)

南硫黄島は、熱帯・亜熱帯性植生、海蝕地形や海鳥の生息に特徴があります。また、急峻な地形や自然環境の厳しさから、小笠原で唯一人為の影響を受けていない島です。このため、自然環境保全法により原生自然環境保全地域に指定されるなど、手厚く保護が図られています。

今回の調査では、動植物及び地質の現況について調査するとともに、種の分化・進化の過程を研究するためのサンプルも多数採取しました。

2. 現時点での主な調査の結果

(1) 4種の未記載種(新種)と思われる陸産貝類を発見

今回発見したキバサナギガイ属、トウガタノミガイ属及びナタネガイ属の4種は南硫黄島固有種(新種)の可能性が高いことを確認した。

(2) 絶滅危惧種 クロウミツバメ(小笠原固有種)の生態の貴重な映像を収録

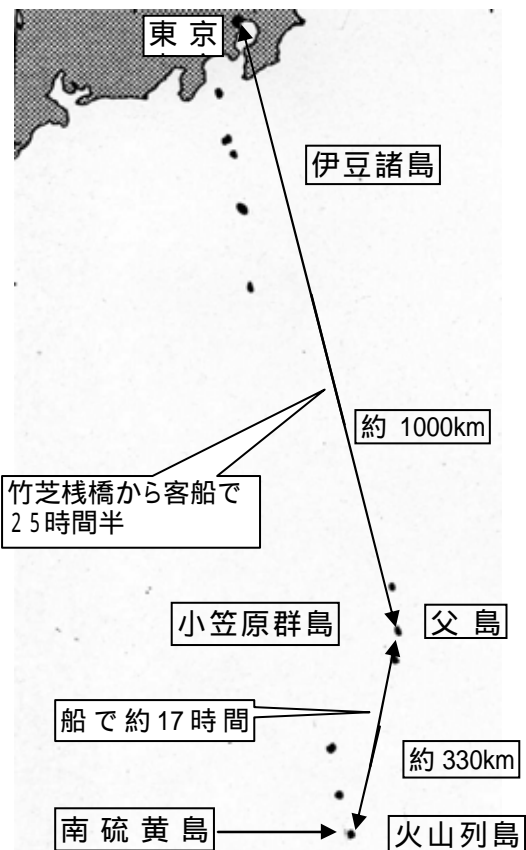
現在確認されている世界で唯一の繁殖地である南硫黄島で、その生態をビデオ映像に収録した。

(3) 単斜輝石の大型斑晶が濃集した極めて珍しい玄武岩の存在を確認

伊豆小笠原諸島及びその周辺の海底火山では例がないほど輝石斑晶が濃集した岩石を確認した。

(4) 絶滅危惧種 オガサワラオオコウモリ(小笠原固有種)をはじめ、人為の影響がない本来の生態を確認

例えばオガサワラオオコウモリは、父島では栽培種のバナナなどを食しているが、南硫黄島では、自生のタコノキの実やシマオオタニワタリの葉を食べている姿を確認した。



南硫黄島の概要
北緯24度13.7分、東経141度27.7分
周囲約7.5km、面積約367ha(すべて国有林)
平均斜度約45°

3. 調査結果の活用

今後学術的に詳細な分析を加え、政府がユネスコに提出する「世界自然遺産登録推薦書」に盛り込み、先進国(G8)の首都として初めての世界自然遺産登録を目指していきます。

【問い合わせ先】
環境局自然環境部緑環境課
井上・中野
電話:都庁内線42-680・42-691 直通 03-5388-3538
首都大学東京 理工学研究科
可知(教授)・加藤(助教)
電話:042-677-2423・2584



南硫黄島全景(北側)



陸産貝類(キバサナギガイ属)の新種
(写真 千葉聡)



クロウミツバメの繁殖を確認
(写真 柳瀬雅史)



単斜輝石の大型斑晶が濃集した玄武岩
(写真 中野俊)



タコノキの実を食べるオガサワラオオコウモリ
(写真 柳瀬雅史)

現時点で判明したその他の成果や画像については、環境局HP及び首都大学東京HPにアップしますので参考にして下さい。

環境局ホームページ
<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>

首都大学東京ホームページ
<http://www.tmu.ac.jp/>